

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①教育活動全体を通し、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できるように、一人ひとりを大切に支援する。②たてわり班活動や人権週間の取組を子どもの考えを取り入れながら、ちがいや多様性を認める学びを大切に、自尊心や自己肯定感を育成する。③人権研修を通し、教職員の人権意識を高める。
担当	

豊かな心に関わる本校の状況
<p>1)豊かな心に関わる児童の実態</p> <p>本校の児童は素直で優しく、友達との会話やかかわりを楽しむ児童が多い。地域とのかかわりも深く、穏やかな雰囲気の中で生活している。道徳的価値は分かっているものの、実践していくことに課題が残る。</p> <p>令和7年度の生活意識調査の結果から、「学校は安心できる場所だと思うか」「自分のことが好きか」「自分によいところがあると思うか」という3つの項目について、どの学年も市の平均と同等もしくは少し下回る結果であり、自尊心や自己肯定感を高めていきたい。</p> <p>また、「自分の考えを相手に分かるように伝えようとしているか」「学級の友達と話し合う活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりしているか」という2つの項目については、学年によって市の平均を上回ったり下回ったりしている。実態としては、自分の思いを表現したり相手の気持ちを想像してコミュニケーションをとったりすることが苦手な児童もいるため、より、他者とのかかわりも充実させていきたい。</p> <p>(2)これまでの学校の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間の教材の取組時期を工夫をし、日常化へ向けた取組を行った。 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間、計画委員会の活動などを通して地域の方と交流したり、感謝を伝えたりする会を設けたりして、感謝の気持ちや思いやりの心を育むようにした。 ・たてわり活動など異学年交流を充実させてきた。 ・「児童会活動」「クラブ活動」「なかよし班活動」「スポーツフェスティバル」などの異学年交流をより自主的、意欲的に行うようにしてきた。また、ブロック朝会をはじめとするブロックで行う活動を通して、他学年のよさを知るようにした。 ・人権週間では、子ども同士のかかわり合いの中であったかい気持ちになったことをメッセージにして送り合う活動をした。 ・夏季休業中に深谷中ブロックで小中合同の人権研修を実施した。

今年度の目標
様々な人々と関わり自他の違いを認める学びを通して自尊心や自己肯定感を高め、社会性や協働性を養う。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科と各教科、学校行事との関連を強くできるよう、年間学習指導計画を見直す。 ・たてわり班活動、社会科・生活科・総合的な学習の時間などの授業で、様々な年齢や立場の方と関わる活動を取り入れ、自分の立場を理解し、適切な言葉遣いや態度などを考え、振り返る場面を設ける。 ・道徳の時間の教材の取組時期を工夫をし、日常化へ向けた取組を行う。 ・「児童会活動」「クラブ活動」「なかよし班活動」「なかよし集会」などの異学年交流をより自主的、意欲的に行うようにし、活動の充実を図る。 ・ブロック朝会を通し、他学年のよさを知るようにする。 ・夏季休業中に深谷中ブロックで小中合同の人権研修を実施する。 ・4・5年生の2学年合同宿泊学習で、5年生がリーダーとなりながら異学年とコミュニケーションをとる経験につなげる。 ・昇降口付近で飼育しているウサギを身近に感じ、生命と触れ合う機会をもつ。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に作成した年間学習指導計画を再度見直し、後半の行事に向けて修正を行う。 ・校外学習や地域の方へのお礼の会などを通して、場に応じた適切な態度を養う。 ・社会科・生活科・総合的な学習の時間、計画委員会の活動などを通して地域の方と交流したり、感謝を伝えたりする会を設けたりして、感謝の気持ちや思いやりの心を育むようにする。 ・たてわり班活動、社会科・生活科・総合的な学習の時間などの授業で、様々な年齢や立場の方と関わる活動を取り入れ、自分の立場を理解し、適切な言葉遣いや態度などを考え、振り返る場面を設ける。 ・幼保小連携として、園児と1年生の交流、園児と5年生の交流を行い、次年度のかかわりも見据えて豊かな心を育成する。 ・3・4年生は、次年度の2学年合同宿泊体験学習にむけて、ブロック朝会等を利用して交流しておく。